

淀川水系流域委員会 琵琶湖部会 現地調査 (H14.9.22) 結果概要

庶務作成

1. 開催日時・場所

日 時：平成 14 年 9 月 22 日 (日) 9 : 30 ~ 17 : 30

場 所：丹生ダム建設予定地付近、余呉町山村開発センター

参加者数：部会委員 8 名 河川管理者 13 名 ダムWG委員 4 名、一般同行者 4 名

2. 現地調査(視察)について

琵琶湖部会による丹生ダム計画地周辺の現地調査(視察)が行われた。今回は、これまでの現地視察時に工事中等の事情で視察できなかったところへ足を運び、また地質学等の専門家の方々もお呼びしてお話をいただいた。視察後は、丹生ダム計画や今回の視察についての感想や意見の交換が行われた。

3. 概要

(1) 視察コース

妙理谷工区

妙理谷周辺では、ダム建設にともなう県道の付け替え工事を行っている。工事による高時川の濁水を防ぐ対策として、土嚢や法面保護、沈殿池などの取り組みについての説明が行われた。委員からは、適切な水質調査が行われているか等の質問があった。

丹生ダム ダムサイト

丹生ダムダムサイトでは、ダムの概要や計画の進捗状況に加え、ダムサイト周辺の活断層の概略が示された。また、植生の分布、クマタカ・イヌワシ等希少猛禽類の保護やアセスメントの実施状況など環境保全対策への取り組みについて説明が行われた。

断層トレンチ(奥川並、尾羽梨) 調査坑

このあたりは、豊かな自然が残された密林地帯であるが、活断層がダム湖を横切るように走っている。断層の範囲はおよそ 10 km で、うち 4 ヲ所で調査を行ったが、いずれのポイントにおいても少なくとも数千年～数万年は活動が起こった形跡がないとの報告が行われた。

奥川並トレンチ、尾羽梨トレンチ周辺を視察したほか、実際に調査坑の中に入り、岩盤の形質を確認した。

注：地面を溝状に掘って地中の断層面を観察する調査法をトレンチ調査という。

(2) 専門家の方々からの説明

西村氏（京都自然史研究所）からの説明

- ・ このあたりの地質は、深海底でたまった玄武岩からなっており、地層の発達は遅い方である。
- ・ 奥川並断層は国道 365 号線沿いに走る柳ヶ瀬断層から分かれる扇状構造となっている。
- ・ 細かい岩が多く、計画されたロックフィルダムには適した構造となっている。

奥氏（森林総合研究所 関西支所）からの説明

「河畔林の景観とレクリエーション利用」

- ・ 河川の源流域を歩く人たちに支持されている河畔景観とは、河川の自然流下が形成する水辺と樹林、森林の組み合わせによる独特の構図が好まれている。
- ・ 河川環境におけるレクリエーションは、その場所の環境特性によって様々な形態に分けられ、来る人も目的も変わる。
- ・ 河川環境の人為的改変は、生物の生息地のみならず、人間にとっての活動の場も大きく変える。レクリエーション活動環境や風景としての源流域は、希少になりつつあるので、上流～下流全体をトータルで見据えた利用方法のゾーニング、および源流域における河川景観保護管理エリアの設定が必要とされている。

鳥塚氏（南浜漁業協同組合）からのお話

- ・ 濁水を川に流すことは、川に住む生き物たちに壊滅的な打撃を与える。とくに余呉高原スキー場の工事が出している濁水はひどい。もともと、この地域は豪雪によってたびたび濁水が出ていたが、そこに工事現場から濁水が加わり、漁場は惨憺たる状況である。姉川の濁水は、琵琶湖（北湖）にも悪影響を与えていることを認識し、改善の努力を考えていただきたい。

(3) 懇談会

現地調査終了後、余呉町山村開発センターにて、参加者による懇談会として、調査視察の感想や説明者への質疑応答など意見交換が行われた。

意見交換

< 西村氏の説明に関する意見交換 >

- ・ 本日は主に活断層について視察を行ったが、地質学の専門家として、どのような危険性があると感じられたか教えていただきたい。
活断層ではあるが活動の連続性は薄いようだ。今は判明していないとのことだが、もし湧水があれば少し水漏れの心配がある。また、伏流水の流れと河川の流れは違うので調査しておいた方がよい。（西村氏）

- ・ 大滝村の地震災害は、ダムが引き起こしたと言われている。大きなダムは地震を誘発するという話があったが、それは本当か。
ダムそのものが地震を誘発するかどうかは分からない。水を溜めると小さな地震はよく起こるが、丹生ダムはロックフィルダムであるため、あまり影響はないと思われる。(西村氏)

<奥氏の説明に関する意見交換>

- ・ 田舎の人や都会の人というような属性の違いで、好む景観も違うのではないか。
ここで上げたような一般の人が好む景観の特徴については、あまり属性には影響されない性質のものだと考えている。
- ・ もし、ダムができた場合、そのアンケート結果を応用して、良い景観をここに作ることはできるか。
はっきりとは言えない。ただ、ダムを作った場合の景観は、本来ここにあった景観そのものから、大きく変わってしまうだろう。
- ・ 何十年という長いスパンで捉えた場合、人々の好む景観というものは変わってくるのではないか。
変わらないと思う。

<その他フリーディスカッション>

- ・ 今、流域委員会委員に求められていることは、ダムをつくるか作らないかの判断であるが、今日の説明内容は、ダムを作ることを前提とした話ばかりであったので、その判断材料とはなりえない。
- ・ 高時川は、自然が豊かで素晴らしい川だと感じた。丹生ダム建設の最大の目的は大阪府の水需要を満たすことだが、一都市のために、こんな広大で貴重な自然を犠牲にしてしまってよいのだろうかと感じた。

丹生ダムの水は、高時川、琵琶湖を通過して大阪へ流れる。ダムができれば、高時川の瀬切れや琵琶湖の湯水を改善する効果もある。生態環境についても、姉川、安曇川ではアユの人工河川による孵化を行っているし、湖北や琵琶湖の水文システムにも貢献する。大阪府だけがメリットを享受するわけではない。(河川管理者)

今はアユの産卵に非常に重要な時期であるにも関わらず、姉川の本流には水がない。頭首工によって農地に水が取りこまれているせいである。清流が河口まで届かないと、河川整備計画が完成したと言えない。

- ・ 一番大きな瀬切れは、ダムなのではないか。
確かに、山の中の生態系が分断されるという意味では、ダムは瀬切れとも言える。しかし、湖と山が回廊として連続するというメリットもあるのではないか。
- ・ これからは、流域全体の視点で、各ダムの機能を相互に分ち合うという考え方が重要になる。ひとつひとつのダムをバラバラに捉えるのではなく、もっと総合

的に考えて行きたい。

- ・ 「高時川のきれいな水をパイプで直接大阪に送ってあげたい」と言っていた人もいた。ダムができて利益を受ける人、逆につらい思いをする人が、ともにこの地域に存在するのに、その人達が不在なまま、ここで議論を行っていることには違和感を感じざるをえない。
- ・ ダムのパンフレットには、作る側にとって都合のいいことしか書かれていない。ダムは流水の正常な機能を維持するというが、ダムの下流の水はどこも汚い。ダムを作ることのメリット、デメリットをともに正直に掲載して一般の方に広報し、対話を行っていく姿勢が必要なのではないか。

ダムができることによって水質が悪化していることは事実であるが、必ずしも全てがそうなるわけではない。水質対策としていろいろなシミュレーションを行っているし、それに応じた対策も検討している。(河川管理者)

<一般傍聴者からの意見>

- ・ 本日の視察を見せていただき、水資源開発公団の方々の真摯な姿勢は立派に思えた。ただ、言いたいことは、これからの自然環境や子供達的环境にとって何が必要か、未来へのビジョンをしっかりと考えたうえで、このダムは本当に必要なのかどうか、そういう視点で考えてもらいたい。

以上

琵琶湖部会（2002.9.22） 現地調査 行程

時間(予定)	乗下車地	内容等
10:30 10:45	余呉町山村開発センター	河川管理者等集合、視察ルートの説明
	妙理谷工区	県道付け替え工事現場周辺
	丹生ダム ダムサイト	
12:20 13:10	奥川並	説明者との意見交換、昼食
	断層トレンチ	
	調査坑	
	尾羽梨	
16:45 17:30	余呉町山村開発センター	参加者による懇談会

説明および発言内容については、現在確認中であり、随時変更する可能性があります。最新の結果概要については、ホームページでご確認ください。